

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2020年3月15日

事業所名

放課後等デイサービスセンターあだち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	0	指定基準に基づきスペースを十分に確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	2	1		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	0	全面バリアフリー化している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	0	月1回の全体会議の中で職員が意見を出し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0		保護者向けの評価表を活用し意見や要望を活動・行事に取り入れられるよう検討している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	0		ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	3		関連機関の職員との面談を定期的に行ない情報交換をするようにしたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	0	内部での勉強会を定期的に行ない職員が一つの課題に対して発表している。	
適切な支援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	児発管が定期的にあセスメントを行ない職員と相談しながら計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	0	アセスメントシートに定期的な子供の状況を記入している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	児発管がプログラムを考え職員全員で修正して完成している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	0	子どもの様子を日々観察し活動の振り返りを行い活動プログラムに変化を持たせている。継続性が必要とされるプログラムに関しては固定化して指導に取り組んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	0	時間がある時は施設外(例えば公園など)で子ども同士遊び社会的な規範を学ぶ。	

の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	0	SSTを用いた個別活動とレクリエーションゲームなどの集団活動を組み合わせている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	0	前日にプログラムを細かく決めている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	0		子供への支援に対して職員が同じ方法を取れるよう話し合いを行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	0		子供を主観的に見てしまう時があるので客観的に記録を取るようにする。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	0	月1回のモニタリングを必ず行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	0	子どもの安全や子どもが社会に適應できるよう支援している。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	0	現場の主任が参加できるよう勤務を変更している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	0		学校送迎時に担当教諭と情報共有を図り、学年通信を随時いただき行事予定を把握している。下校時間の変更があった場合には学校から連絡をいただき対応している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	3		
関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2	情報共有のため集まってミーティングを行ない相互理解を深めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	3		まだ卒業に該当する児童がいなかったためできていないがその機会があれば情報の提供を積極的に行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	運営母体の精神科クリニックの専門家に助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	0	連絡帳で毎回情報交換し必要であれば面談している。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	3		ペアレントトレーニングは大切であるが職員研修等でレベルの向上を行なう必要がある。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0	利用開始時にしつかり説明をし納得していただいている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	0	医療的な相談に対しては職員が医師に相談し、心理的な相談は公認心理士が対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3		今後開催できるよう対応していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	0		現在大きな苦情は頂いていないが極力苦情が生じないよう快適な環境を整えるようしていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0	3	毎月、次月の予定表に行事予定を記入し、連絡帳に情報を記入している。	会報は発行できていないので出せるよう検討していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	3	0	職員が常に意識し情報を外部に持ち出すことがないようにしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	0	疾患の知識をもとに相手に伝わりやすいよう工夫している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3		今後地域交流をしていく予定である。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	3		現在現場に即したマニュアル作成中である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	0	年2回併設するグループホームの避難訓練に参加している。	火災・水害以外の訓練も必要に応じ行なっていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	0		全体会議にて虐待防止の研修を行なう。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	3	該当事例はないが、マニュアルを作成し、保護者や関係者と事前に意見交換をし理解を得たうえで行うようにしていきたい。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0		利用前に保護者や医療機関からしっかりした情報を得る。

	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	0	全体会議で些細な事例も発表しあい再発防止に努めている。	
--	----	---------------------------	---	---	-----------------------------	--